

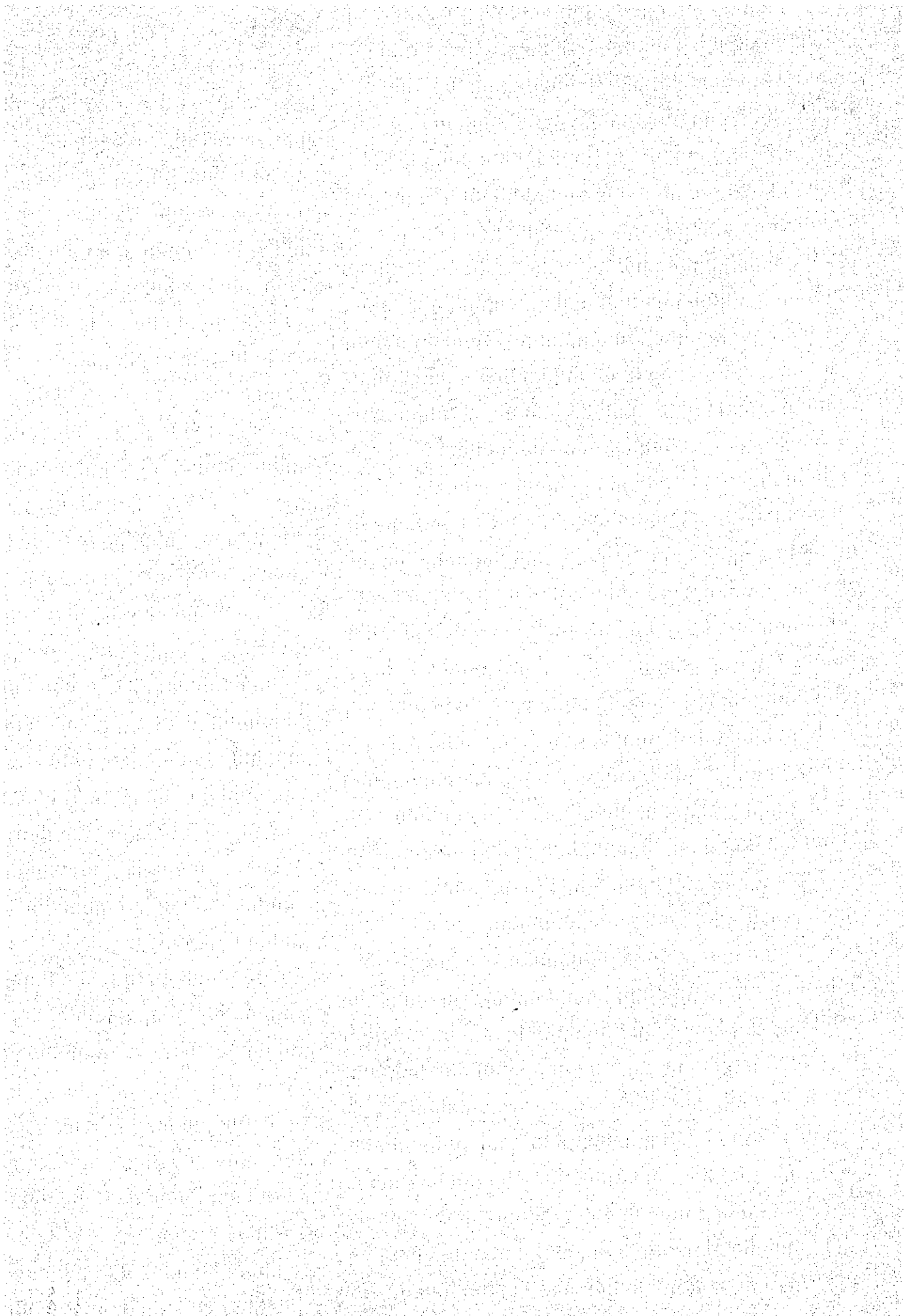
国際捜査セミナ一帰国研修員
巡回指導報告書

国際協力事業団

研修事業部

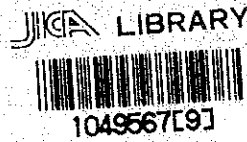
JICA
108
49
TA
LIBRARY

T	A
J	R
83	— 4



昭和57年度帰国研修員巡回指導

国際捜査セミナー帰国研修員
巡回指導報告書



国際協力事業団

研修事業部

國際協力事業団	
貸付 月金 84,5175	4108
登録No. 05531	492
	TA

はじめに

この報告書は、国際協力事業団が実施した集団研修「国際捜査セミナー」に参加した帰国研修員に対するフォローアップ事業の一環として、帰国研修員の所属機関等を訪問し、現地での諸問題に関する指導並びにニーズの調査等を行うため、昭和57年8月30日から9月13日までの15日間、インドネシア、ネパールの2ヶ国に派遣した巡回指導班の業務報告書である。

本報告書により、当該分野における各国の実情、帰国研修員の活動状況、彼らが抱えている諸問題及び研修に係る要望事項等について関係各位のさらに深い理解をいただき、今後の研修の改善に資すれば幸いである。

なお、本件の実施のために御協力を賜った外務省、警察庁並びに現地において数々のご指導とご協力を賜った在外公館及び関係機関の皆様に深甚の謝意を表したい。

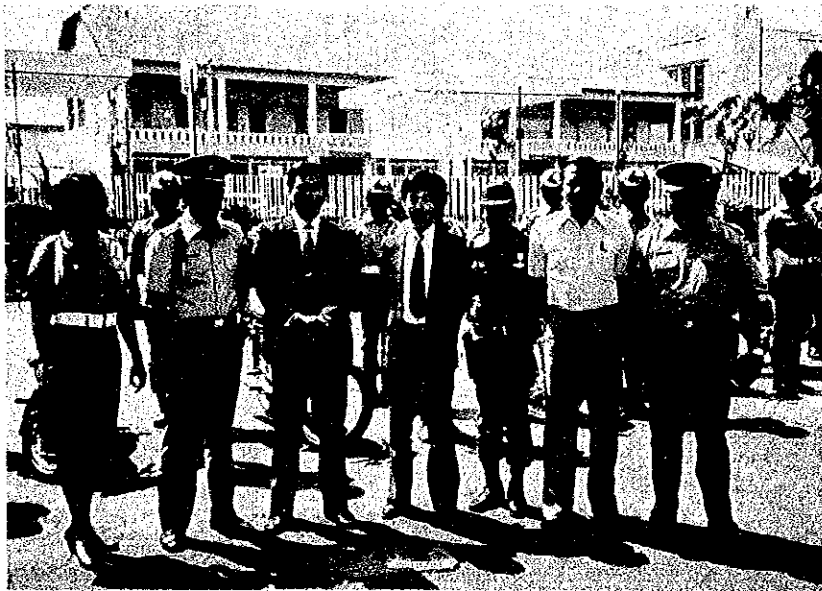
昭和58年12月

研修事業部

部長 山村 寛



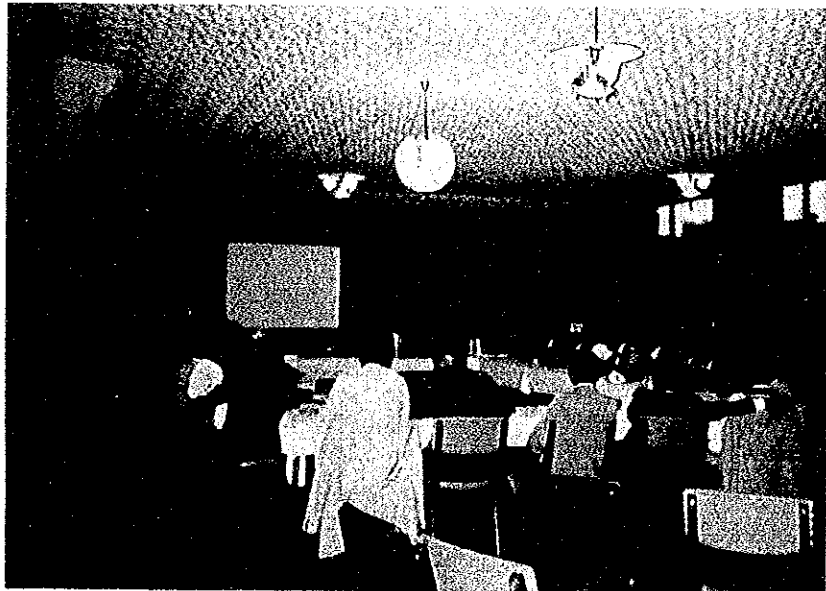
インドネシア国家警察本部にて帰国研修員と面談



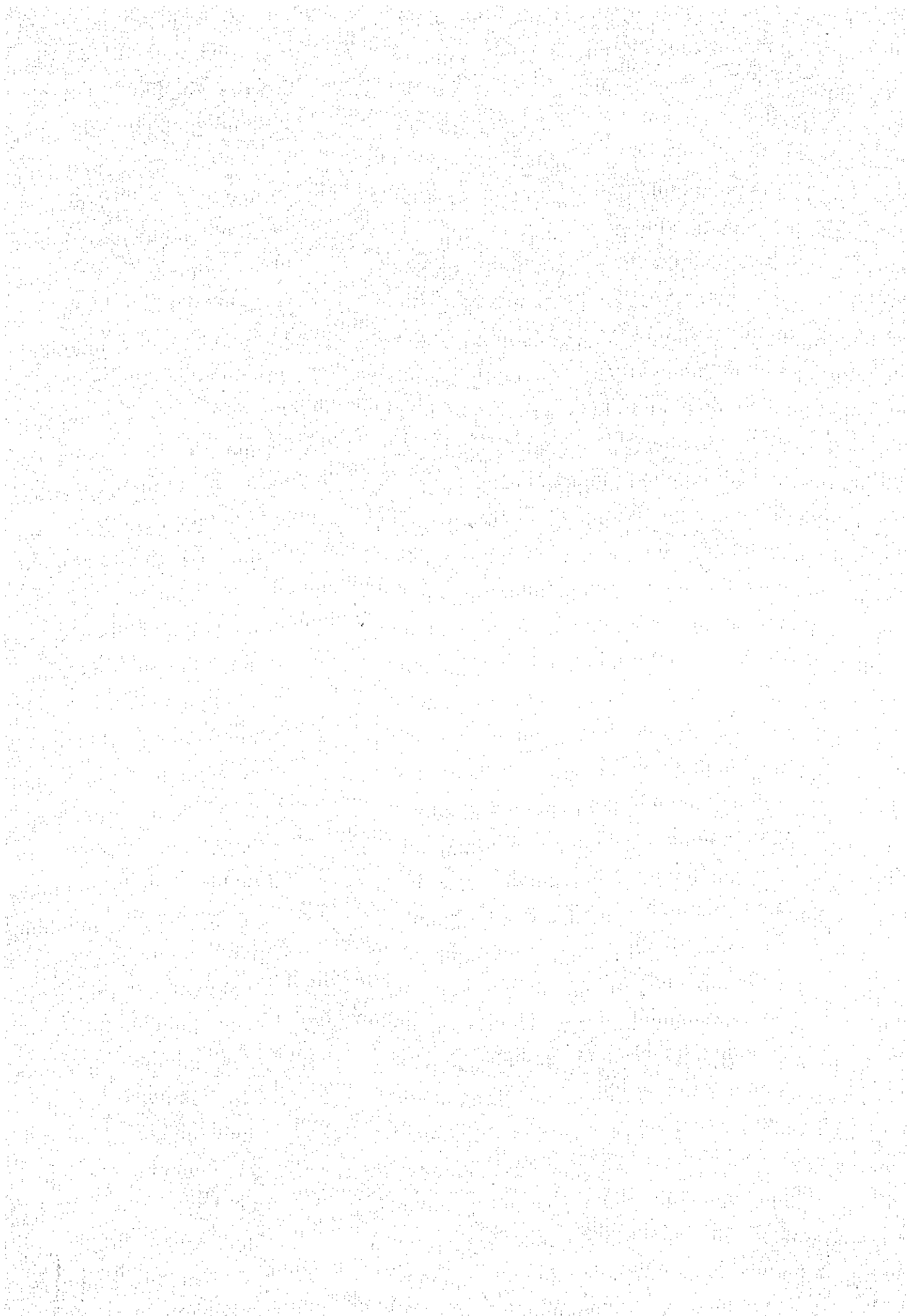
インドネシアスラバヤ市警本部表敬



ネパール警察庁LAMA長官を表敬



現地セミナー風景（ネパール）



巡回指導班報告書

1. 国際捜査セミナーの現況

近年、犯罪の国際化又国際犯罪の多様化に伴い各国に於ける国際犯罪捜査技術の向上及び各国相互の協力関係の緊密化を図ることが肝要になりつつある。

本セミナーは、各国の国際捜査担当者を研修員として日本によびわが方警察組織、システム、機材を紹介しわが方刑事警察に係る理解を深めてもらうと共に、情報・意見交換を通じ国際捜査協力の基盤強化を図り参加各国の刑事警察の運営の向上、ひいては経済発展、民生安定に寄与するものである。本セミナーは昭和50年以来隔年実施しており、のべ23カ国61名の研修員を受入れている。(受入実績別表)

2. 巡回指導の目的

(1) 研修成果の評価、今後のニーズの把握

本セミナーの帰国研修員、警察関係者との面談を通じ本セミナーの研修成果を把握・測定すると共に、当該国インドネシア、ネパールの刑事警察部門の技術的問題点及び現地のニーズを把握することにより、今後のセミナーをより実効あらしめ、さらに刑事警察に於けるわが国と当該国との相互協力体制確立の基盤をつくることを目的とする。

(2) 現地セミナー開催

インドネシア、ネパール両国に於いて現地セミナーを開催し、両国の刑事警察関係者にスライド等でわが国の捜査技術の一端を紹介すると共に意見交換を行うこととする。

(3) インドネシア特設刑事警察セミナーの事前準備

インドネシアについては、秋に予定されている特設刑事警察セミナーに備え相手側のニーズの把握を行うと共に、わが方より先方に対する要望事項を伝え研修の事前準備を行う。

3. 派遣国及び期間

- | | |
|---------|---------------------|
| (1) 派遣国 | インドネシア、ネパール |
| (2) 期間 | 昭和57年8月30日より同年9月13日 |

4. 巡回指導班の構成と日程

(1) 指導班の構成

小池 登一

警察庁刑事局国際刑事課々長補佐

直江 勇一

警察庁刑事局国際刑事課

外川 徹

外務省経済協力局技術協力第一課

(2) 巡回指導班巡回日程

8月30日(月) 移動(JL721)
東京 → ジャカルタ

8月31日(火)AM JICA事務所表敬, 打合せ, 日本国大使館表敬
インドネシア国家警察表敬(日程説明, 打合せ), 帰国研修員との昼食会
PM 帰国研修員(3名)との面談

9月1日(水)AM 現地セミナー開催(於国家警察)(捜査技術, 指紋鑑識)
今秋開催予定「イ」特設刑事警察セミナー参加予定研修員(4名)との懇談会
PM 上記研修員との打合せ

2日(木)AM 移動
ジャカルタ → スラバヤ
PM 東部ジャワ管区警察本部表敬, 同本部科学警察研究所視察

3日(金)AM 特設セミナー参加研修員(1名)との面談
PM スラバヤ市内視察

4日(土)AM スラバヤ市警察本部表敬, 日本国総領事館表敬
PM 移動
スラバヤ → ジョグジャカルタ
ジョグジャカルタ市警本部関係者と打合せ

5日(日) 自由日

6日(月)AM 移動
ジョグジャカルタ → ジャカルタ
ジャカルタ市警本部表敬
PM 資料整理

7日(火)AM JICA事務所, 大使館報告
PM 移動(SQ205, SQ062)
ジャカルタ → バンコク

移動 (TG311)

8日(水) AM バンコク → カトマンズ

PM JICA事務所表敬, 打合せ, 日本国大使館表敬

9日(木) AM ネパール国家警察表敬

PM 帰国研修員(1名)との面談(於JICA事務所)

10日(金) AM 班内打合せ

PM 現地セミナー(於ブルースターホテル)開催(捜査技術, 指紋鑑識)

長官主催レセプション

11日(土) 資料整理

(RA401, CX712)

移動(バンコク経由)

12日(日) AM カトマンズ → 香港

移動(CX500)

13日(月) 香港 → 東京

5. 指回指導班の活動経過

8月31日(火)

- AM (1) JICAジャカルタ事務所を訪問し, 日程の打合せを行う。続いて日本国大使館を表敬(中村参事官, 片山一等書記官)
- (2) 国家警察国際刑事部長 Col. Sidarto を表敬し今回の訪問を説明し, 指導班の巡回指導に係る協力を要請した。同部長より今回の指導班の訪問は国家警察をあげて歓迎するも, 遺憾ながら帰国研修員4名中1名は公務の都合で今回の指導班の面会には応じられない旨の説明があった。又秋の特設刑事警察セミナーにも触れ, セミナーの内容を確認越したのでわが方より以下のとおり説明した。
- (イ) 交通に係る問題は, 昨年特設交通警察セミナーを実施したので今回は扱わない。
- (ロ) わが方で実施する警察庁担当局が刑事局であるので, セミナーの内容については国際捜査セミナーに準ずるものとする。薬物・麻薬犯罪については扱わない。
- (ハ) Terrorismについては, 刑事局の所掌していない事項なので扱わない。
- (ニ) 開催時期については昭和57年11月下旬より約4週間実施すべく検討中である。
- (3) 次に国家警察情報担当次長 General Suekartono を表敬する。同次長は本セミナーの意義を認め今後も継続してほしい旨述べると共に今回の巡回指導には協力を惜

しまない旨も述べた。

(4) 帰国研修員との懇談昼食会

P M (5) 帰国研修員 3 名と面談（詳細は後述する）

9 月 1 日（水）

A M (1) 国家警察視聴覚室に於いて視聴覚機材を用いて現地セミナーを実施する。

テーマは (1) 捜査鑑識

(2) 指紋鑑識

参加者は約 10 名。

P M (2) 秋に開催予定の特設刑事警察セミナー参加予定研修員（以下 4 名）と面談する。

(1) Hendro Kusnmo 国家警察学校副校長

(2) Hindarto ジャカルタ市警本部刑事課長

(3) Tony Sidharta 国家警察刑事課長補佐

(4) Dahwar Thalib 国家警察刑事課係長

4 名よりはセミナーの内容について特段の要望はなかったが、関連施設見学の時間を充分取って欲しい旨要望があった他、受入について若干の質問があったのでわが方より回答しおいた。

9 月 2 日（木）

A M (1) ジャカルタよりスラバヤへ移動

(2) 第 10（東部ジャワ）警察管区（インドネシアの警察管区については別表参照）の Moorkesid 参謀長を表敬する。

同参謀長よりインドネシア特設刑事警察セミナー参加予定研修員 Mr. Soetardjo をわが方に紹介される。同参謀長は、東部ジャワ地域の警察組織向上のためにもかかる研修員受入れは継続して欲しい旨述べた。

P M (3) 第 10 警察管区付属科学捜査研究所を視察。同研究所々長 Ajirin 大佐（「イ」国で女性の警察大佐は彼女の他は 1 名しかいない由）の案内で研究施設を見学する。指紋鑑識、薬物分析、偽造文書鑑識等の研究が相当の水準で行われている印象を受けた。

9 月 3 日（金）

前述の特設セミナー参加予定研修員 Mr. Soetardjo の案内により、スラバヤ市警等関連施設及び、住宅地域、商業地域を視察した他同人の特設セミナーに係る要望を聴取した。

9月4日(土)

A M (1) スラバヤ市警本部を表敬する。

Soentono 本部長よりスラバヤ市の警察業務に係る説明を受ける。同市には行政区分(北スラバヤ, 南スラバヤ及び東スラバヤ)に合わせた3つの警察署と1つの分署があり, スラバヤ市全人口330万人に対し警察官は約2,160名いるとのことである。近年の都市集中化現象による交通事故, 犯罪の増加は由々しき問題となりつつあり既存の警察体制の強化と共に地域社会の参加を求める地域総民治安体制を築くことが必要である旨の考えが述べられた。

次に同本部長の案内で市警本部に隣接している同本部交通管制センターを見学する。

P M (2) 在スラバヤ日本国総領事館表敬(西谷領事)

今回の巡回指導に係る報告を行う

(3) スラバヤ^{移動}→ジョグジャカルタ

(4) ジョグジャカルタ市警本部職員と面談

Lieut. Sockiran ジョグジャカルタ市警本部

Wilayak 地区司令官

Serg. Budi Suroso 同市警本部情報部

両氏と面談し観光地に於ける治安の問題等先方事情を聴取する。

9月5日(日)

ジョグジャカルタ市内視察

9月6日(月)

A M (1) ジョグジャカルタ^{移動}→ジャカルタ

(2) ジャカルタ市警本部表敬

同市警本部 Col. Hindarto 刑事課長より説明を受ける。

P M (3) 特設刑事警察セミナー参加予定

以下研修員4名と懇談会

(イ) Col. Hindarto ジャカルタ市警本部刑事課長

(ロ) Col. Tony Sidharta インドネシア国警本部刑事課長補佐

(ハ) Col. Hendro Kusumo 同本部警察学校副校長

(ニ) Lieut. Col. Dohwar Thalib 同本部刑事課係長

(4) 巡回指導班班内打合せ

インドネシア分のまとめを行う

(5) 日本国大使館片山書記官と夕食会

9月7日(火)

A M (1) J I C A ジャカルタ事務所挨拶

宮本所長に今回の巡回指導の報告を行う

(2) 日本国大使館挨拶

中村参事官, 片山一等書記官に今回の巡回指導の報告を行う

(3) ジャカルタ ^{移動(シンガポール経由)} → バンコク

バンコク泊

9月8日(水)

A M (1) バンコク ^{移動} → カトマンズ

P M (2) J I C A カトマンズ事務所表敬・打合せ

平田事務所長と今回の巡回指導の日程打合せを行う。

ネパールには本セミナー帰国研修員が3名おり, 内1名(Mr. Tapa)はネパール警察の長官を勤めている由であり指導班も同長官との面会を期待していたところ平田所長によれば最近の人事異動により帰国研修員中長官を含めた2名が退職, 残る1名が地方勤務を命ぜられた由であり, 今回は退職したMr. D. Bahadur Shresthaと面談すべくアポイントメント取付中とのことであり指導班を驚愕させると共に落胆させた。

(3) 日本国大使館表敬

古森参事官に今回の巡回指導の日程, 目的を説明する。

(4) J I C A 事務所長主催夕食会

9月9日(木)

A M (1) ネパール国家警察表敬

D. B. Lama 長官を表敬し巡回指導の日程, 目的を説明する。

同長官より指導班の訪問を歓迎すると共に帰国研修員が退職, 地方勤務で今回の面談に応じられずに遺憾である旨の説明があった。又同長官は日本の協力を高く評価しており, 特に空手指導の協力隊員の活躍振りが話題となった。

P M (2) 帰国研修員との面談(詳細は後述する)

9月10日(金)

A M (1) 巡回指導班内打合せ及び現地セミナー準備

P M (2) 現地セミナー開催(於ブルースターホテル)

テーマは (イ) 捜査鑑識

(ロ) 指紋鑑識

参加者は約20名

スライドによるわが方捜査技術を紹介した後自由討論となった。

多くの出席者よりわが方警察組織、体制、捜査技術に係る質問が種々出たがわが方より可能な限り説明した。

(2) 上記セミナー参加者との懇親会(立食形式)

(3) I A M A 警察庁長官主催夕食会(於警察クラブ)

警察幹部との懇親会の他警察職員の余興があった。

9月11日(土)

資料整理、カトマンズ市内視察

9月12日(日)

カトマンズ $\xrightarrow{\text{移動(バンコク経由)}}$ 香港、香港泊

9月13日(月)

移動
香港 \rightarrow 成田

6. 帰国研修員との面談について

前述のとおりインドネシアについては帰国研修員4名中(別表参照)3名と面談を行った。ネパールについては前述の事情により帰国研修員3名中(別表参照)1名と面談するにどまなかった。各人との面談要旨は以下のとおり。(各研修員面談要旨のイ、ロ、ハの各項目は別表 Questionnaire のそれぞれ1.(1), 1.(2), 2.の質問事項に該当する。)

インドネシア

(1) Deardjat Firman Bey (1975)

イ. 講義の内容、見学地の選択は適当でありセミナー全体については至って満足している。
ロ. セミナーに於いて日本の関係者のみならず他の国の国際捜査担当者と意見交換が出来たことは有意義でありセミナーの場で築いた human relationship は今も続いており現在も手紙で情報交換を行っている。(特にシンガポール、マレーシア、フィリピン、インドの帰国研修員と)

又セミナーを通じて得た経験が帰国後業務の向上，士気高揚に資するところ大である。
ハ、参加者間の情報交換，協力体制の基盤づくりは非常に有意義であり今後もセミナーの場
でその点に力を入れてほしい。

(2) Koesparmono Irsan (1979)

イ、全体的に非常に満足のいくセミナーであった。特にセミナーで触れた Police Box System (交番制度) は興味のあるもので帰国後上司にこの System を報告した。かかるシステムの導入もおもしろいと思う。(ロ、帰国後警察システム向上のヒントを得た) 又暴力団に関する講義も興味深かった。

出来ればインドネシアで今問題となっている Small Arms (刀剣，銃器) の取締りについて充分説明を受けたい。(これに対しわが方より個々のケーススタディは Confidential matter でありなかなかセミナーで紹介するのは難しいが一般的な取締りについてはセミナーの中で触れることを検討すると説明した)

ハ、これからセミナーに望むことは上記の Small Arms の取締り，指紋鑑識等の Practical なものを学びたい，それも適正技術ということであり例えば日本の最新のコンピューター管理システムを学んでも，インドネシアではそのハード面を揃えるにも何年かかるかわからない。

(3) Rhardjo (1981)

イ、セミナーのアレンジ，研修旅行はとても良かった。ただ講義の内容がインドネシア人にとっては Heavy なものがある。(適正技術の問題)

ロ、日本及び各国の Interpol 担当者との情報交換が出来帰国後も大いに役立った。犯罪捜査協力体制づくりは就中重要である。総じて有意義な経験であった。

ハ、今後望むこと

情報交換の場である Speech (発表会) はセミナーの中でも重要なものであり，各人の発表のレポートは少くとも発表の 2 日前にもらって予め目を通しておきたい。又われわれの英語力の問題，質問準備のため各講義のレジュメを前もって (2 日前) もらっておきたい。

Q.I の記載の Speech の Subject については " Extradition " (犯人引渡) が協力体制の Point でありこの内容でこれからも続けてほしい。

ネパール

Dwarika Bahadur Shrestha (1977) (同人は 82 年 7 月に退職している)

イ、講義，見学旅行はとても有意義であった。期間は 6 週間が適当である。(講義，見学，意見交換，発表会を充分やるには 6 週間は必要)

ロ、日本で学んだ経験は非常に有意義であった。特に最新の通信システムの見学は良かった。

特にセミナーの中で警察の教育制度・機関（警察学校）についての講義，見学は大変有意義であった。ネパールは技術的に大変 behind であるが日本の教育制度を学ぶことによりネパール警察の教育制度向上のヒントを得た。セミナー中の発表会も有意義でありセミナーを通じ各国の Interpol 担当者と情報交換が出来尚かつ人間関係を築くことが出来た。

（general impression として）

日本で研修した後 1979 年に英国の警察制度を視察する機会があったが日本で得た以上のものは得られなかった。セミナーの箱根，京都・開西旅行は人間関係をより一層密にする意味でも有意義であり単に観光旅行以上の意味がある。

7. 巡回指導班の所感

今回の 2 カ国訪問を通じて得た印象であるが，総じて，指導班が想像していた以上に，先方の本セミナーによせる期待は大きいことである。

例えば，インドネシアでの帰国研修員との面談についてはジャカルタ在住の帰国研修員の他スマトラ在住の帰国研修員も本面談のみのためジャカルタに赴いたという熱の入れようの他，ジャカルタを離れてスラバヤ，ジョグ・ジャカルタに於いても，現地警察の多大な協力を得ることが出来た他わが方技術研修についての照会もあった。

ネパールに於いては，残念ながら人事異動等の理由で帰国研修員 1 名のみとの面談しか行えなかったが同人より貴重な意見を聴取することが出来た上，ネパール国家警察長官自ら，指導班訪問に快く応じてくれ先方警察関係者との懇親・意見聴取も充分出来たと思う。現地セミナーに於いては我々の予想に反し 20 余名の参加者を得て，セミナー終了後も自由討論が夕刻まで続くという先方の熱意がうかがわれた。

「捜査セミナー」というなかなか技術移転効果の表われにくい分野であり果してどれだけの成果が期待出来るか指導班の懸念するところであったが前述のとおり，面談した全ての帰国研修員から本セミナーのカリキュラム，講義，見学の配分，発表会等高い評価を得ることが出来た他，本セミナーが帰国後も警察業務向上に資するところ大であるという事例に接することも出来，今回の訪問は非常に有意義であった。

今回の訪問で，帰国研修員及び警察関係者から聴取した貴重な意見を参考として，今後も本セミナーをより実効あらしめるため努力を行う所存である。

付 属 資 料

- (1) 国際捜査セミナー受入実績表
- (2) 帰国研修員リスト
- (3) インドネシア警察組織図，警察管区分布表
- (4) 面談者リスト（インドネシア，ネパール）
- (5) 帰国研修員に対する質問表（Questionnaire）フォーム

1. 受入実績表

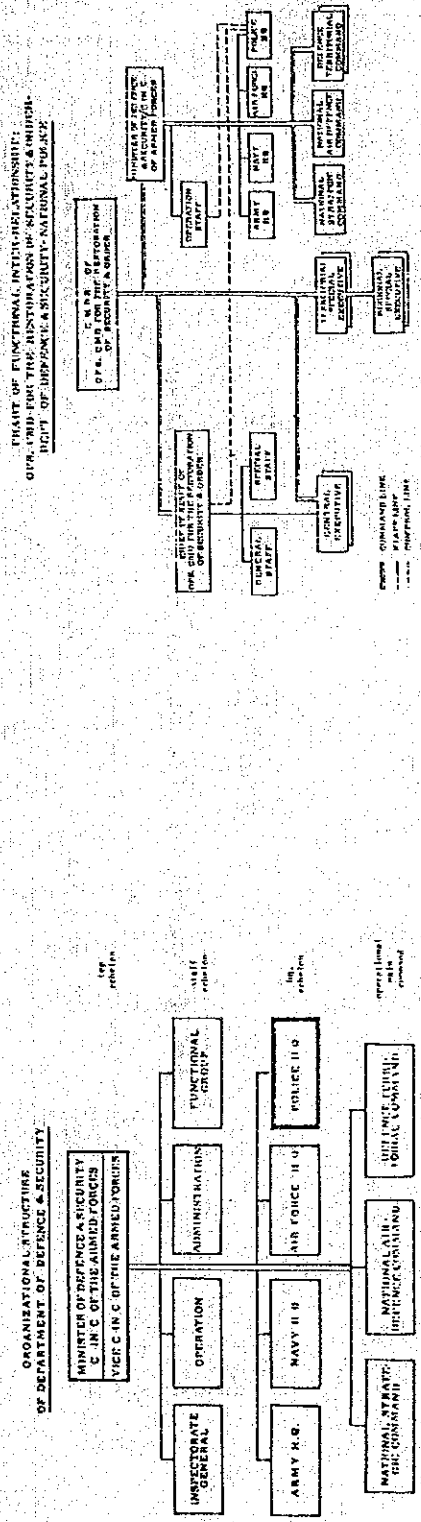
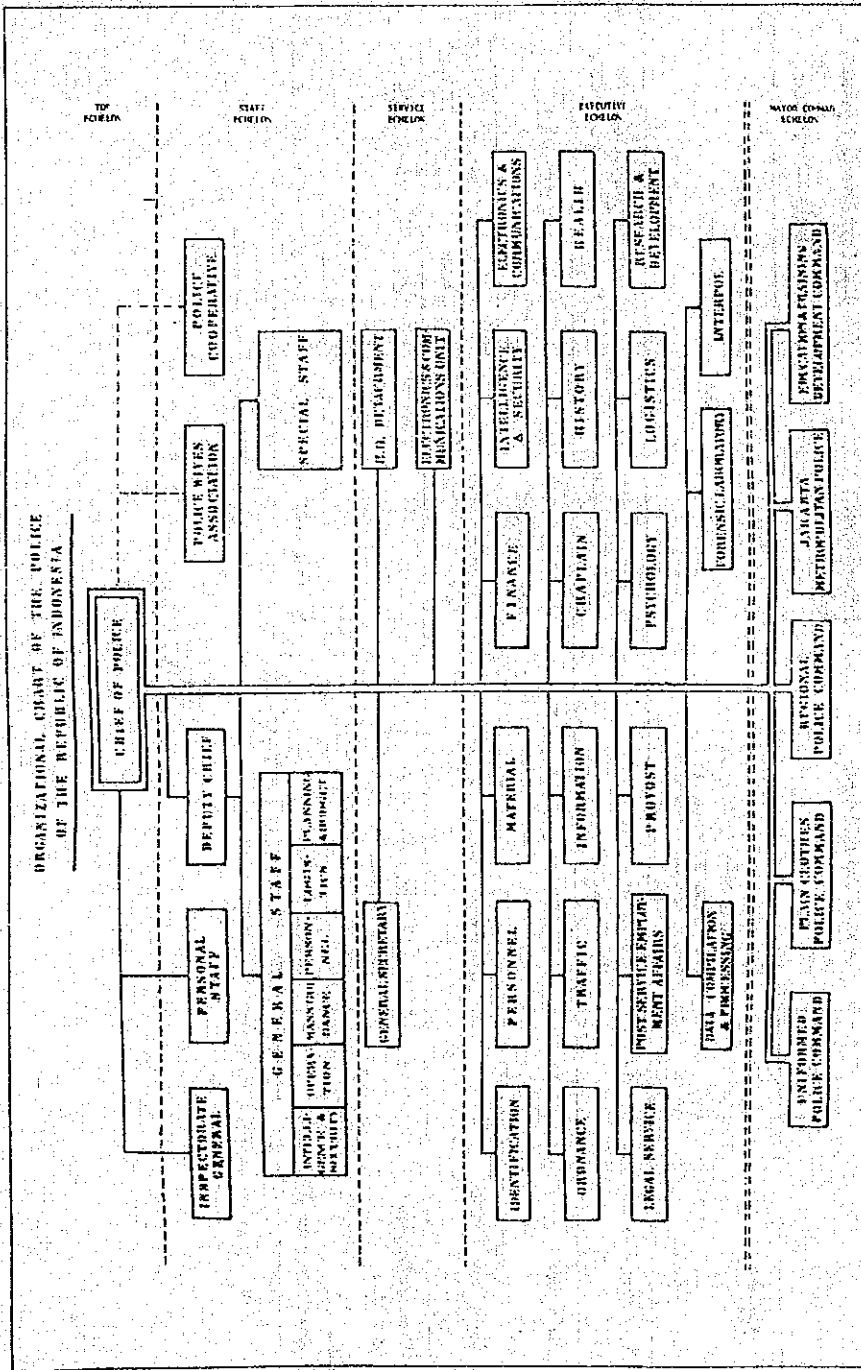
年度 参加国	昭和50年度	52年度	54年度	56年度	計
アルゼンティン		1	1		2
アラブ首長国連邦			1		1
バングラデシュ		1			1
ブラジル			1		1
エジプト				1	1
フィジー	1	1	1		3
香港		1	1	1	3
インド	1	1	1		3
インドネシア	1	1	1	1	4
イラン	1		1		2
イラク		1			1
ジャマイカ				1	1
大韓民国	1	1	1	1	4
マレーシア	1	1	1	1	4
ネパール	1	1		1	3
オマーン	1				1
パキスタン	1	1	1	1	4
P. N. G		1	1	1	3
ペルー			1		1
フィリピン		1	1	2	5
シンガポール	1	1	1	2	5
スリランカ	1	1	1	1	4
タイ	1	1	1	1	4
合計	13	16	17	15	61

2. 帰国研修員リスト

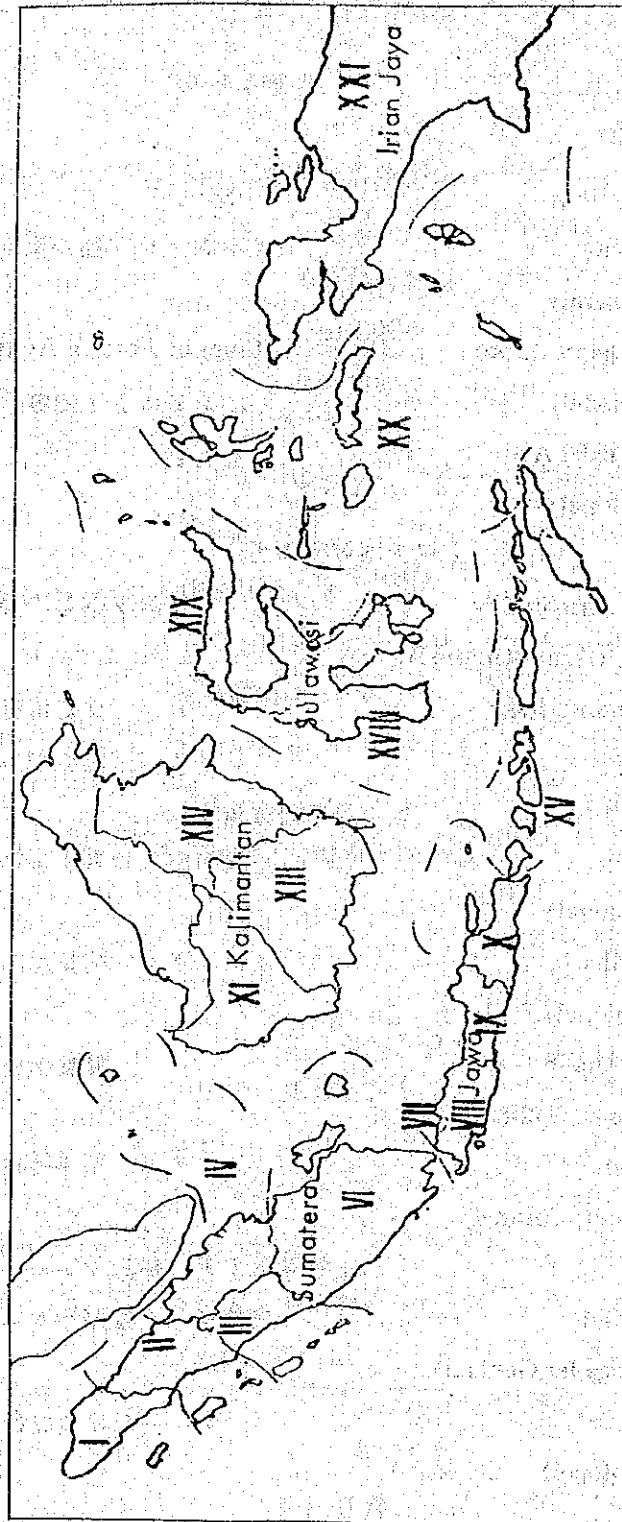
List of Ex-participants of Seminar on Criminal Investigation

No.	Name	Age	Post at the time	Home Address	Official Address	Year of Attendance
1	Mr. Deradjat Firman Bey	49	Chief of 2nd Division, National Central Bureau, Indonesia Interpol	16, Jalan, Danau Poso, Jakarta Pusat, Indonesia	3-Jalan Trunojoyo, Keb Baru Jakarta, Selatan, Indonesia Tel.: 7812536, 7812140	1975
2	Mr. Ngadiono	38	Interrogator, Criminal Investigation Division, Indonesian National Police Headquarters, Jakarta			1977
3	Mr. Koesparmono	42	Lt. Col. of Police, Chief of C.I.D.	Masonete Kod aE Metro Jaya D-5, Indonesia	Jakarta Metropolitan Police Regional Command, Jakarta	1979
4	Mr. Rahardjo	41	Head of International Crime Div.	Kompleks Polri Pengadegan Blok B5 Jakarta	Indonesian Police HQ.	1981
5	Mr. Durlowe K. Thapa	53	Inspector General of Police	A5/289, Lagankhel, Patan, Nepal	Police Headquarters, Kathmandu, Nepal	1975
6	Mr. Dwarika Bahadur Shrestha	42	Deputy Superintendent of Police, Head Criminal Investigation Sub-section, Interpol Section		NBC, Nepal, Nepal Police	1977
7	Mr. Rewat Bahadur Thapa	36	Inspector	Biratnagar-18	Police Head Quarter Kathmandu	1981

3. インドネシア警察組織図



警察官区分布表



4. 面談者リスト

1. インドネシア

氏名	役職
Suekartono (General)	インドネシア国警察本部情報担当次長
Sidarto Danusubroto (Colonel)	Chief of Foreign Affairs (インドネシア国警本部国際刑事部長)
Abdoel Dialal Ar. (Colonel)	同部次長
(以上国警関係者)	
Deradjat Firman Bey (Lieutenant Colonel)	インドネシア国警本部インターポール
Koesparmono Irsan	// 保安情報課課長補佐
Rahardjo	// 国際刑事課長
(以上帰国研修員)	
Hindarto (Colonel)	ジャカルタ市警本部刑事課長
Tony Sidharta (Colonel)	インドネシア国警本部刑事課長
Dahwar Thalib (Lieut. Colonel)	// 警察学校副校長
Soetardjo (Lieut. Colonel)	// 刑事課係長
(以上特設セミナー参加予定研修員)	
Mder Kesid (Brigader General)	東部ジャワ警察司令部本部参謀長
Ajirin (Colonel)	// 科学捜査研究所所長

Soentono スラバヤ市警本部長

(Colonel)

Soelardjo 同副本部長

(Lieut. Colonel)

Slamet 同本部情報・公安部長

(Major)

Miswan // 暴徒鎮圧部長

(Major) // 交通部隊長

Wati Soemarsono // 交通部隊長

(Major)

Imam Kasadani // 捜査部隊次長

(Major)

(発上スラバヤ市警本部関係者)

Soekiran ジョグジャカルタ市警本部 Wilayah

(Lieutenant) 地区指令官

Budi Suroso 同本部情報部

(Sergeant)

(以上ジョグジャカルタ市警本部関係者)

2. ネパール

D.B. Lama ネパール国家警察庁長官

Rudra Bdr. Pande // 訓練センター

(Superintendent)

Dhal Man Thapa //

(Deputy Superintendent)

Sudersan Samsher // 空港警察

(")

Moti Lal Bohara // 訓練センター

(")

Ram Kaji Bantawa 地区警察

(")

Govinda Karma Thapa (Deputy Superintendent)	Lalitpur 地区警察
Rohini Kumar Sinha (")	ネパール 国家警察管理部
Krishna Bhakta Shrestha (")	警察署
Ambika Bdr. Chetri (Inspector)	// Kamal Pokhri 訓練センター
Shyam Brakta Thapa (")	// 訓練センター
Gyan Bdr. Pradhan (")	カトマンズ交通警察
Ramesh Kumar Shrestha (")	国家警察科学警察研究所
Chet Narayan Bhusal (")	// 出入国管理局
Keshab Baral (")	// 刑事課
Surendra Bdr. Pal (")	Detective Branch
Kumar Koirala (")	//
Rajendra Bdr. Singh (")	//
Narayah Chand Thakuri (")	訓練センター
Ashok Singh (")	//
Rudra Prasad Acharya (")	//
Gynendra Mahat (")	カトマンズ地区警察

Saha Bir Thapa

カトマンス地区警察

(Inspector)

Lalit Bdr. Basnet

”

(”)

(以上ネパール国家警察関係者)

Dwarika Bahadur Shrestha

(帰国研修員)

5. 質 問 表

Questionnaire to the Ex-Participants of the Seminar on Criminal Investigation

We appreciate greatly your cooperation in answering the following questions. (Please typewrite or write in block letters)

Full Name: _____

Present Post: _____

Official Address: _____

Telephone Number: _____

Home Address: _____

Telephone Number: _____

Period of Seminar attended: From _____ To _____

1. Evaluation of the Seminar which you attended in relation to your present work.

Was the Seminar beneficial to you in improving:

(1) the management of the criminal police organization,

Yes No

If yes, please explain how

(2) the criminal investigation equipment?

Yes No

If yes, please explain how

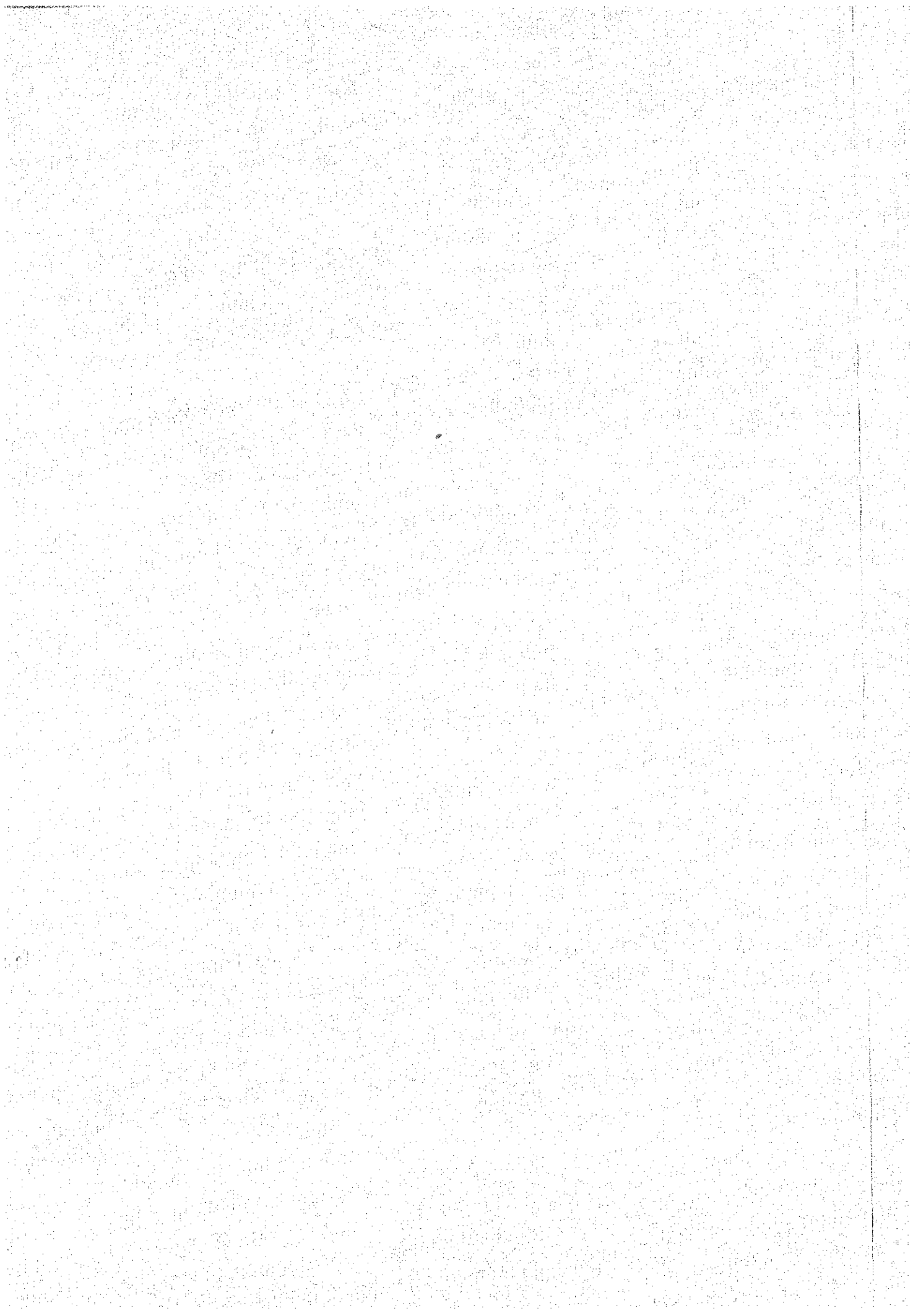
(3) Other aspects.

2. Do you have any proposal or ideas for further improvement of the Seminar?

(1) Topics

(2) Place to be visited

(3) Time allocated for presentation of participants



JICA